

○質疑（三好委員） それでは、今説明のありました2つの事業について質問させていただきたいと思います。

まず1つは、ピース・アーチ・ひろしまについてであります。いよいよ間近に迫ってきたわけですが、単刀直入に言いますと、チケットの売れ行きが厳しいのではないかという声もよく聞くわけですが、主なコンサートで結構ですので、現状を教えてくださいたいと思います。

○答弁（文化芸術課長） 7月15日現在で、オープニングコンサートが約8割弱、ブーニンさんや秋川さんなどと広島交響楽団が共演するクラシックの夕べ・第1部が約8割、クインシー・ジョーンズさんなどに出演していただくエターナルピースコンサートが約7割となっております。

○要望・質疑（三好委員） もうちょっとというところだろうと思います。一人でも多くの方に来ていただくことが大切でありますので、すべての席を満席にすることを目的に、ぜひもしっかりとPRしていただきたいと思います。

また、ピースフィールドについても、家族で楽しめる大変いいイベントでありますので、こちらのほうにもしっかり来ていただくようPRをしていただきたいと思いますが、その際、広島や世界の料理が味わえるコーナーもあるとのことですので、暑い時期でありますから、食中毒や熱中症対策にも十分気をつけていただきまして、安全管理していただきたいと思います。

ところで、このプロジェクトの目的は平和のメッセージを国内外に強く発信していくということでもあります。テレビで見ることができるとのことばかりPRしますと、チケットの売れ行きに影響するというふうに思いますけれども、平和のメッセージをどのような方法で国内外へ発信していこうとされているのか、もう直前でありまして、具体的に一連のコンサートや会議等、どれを、どこに、どのような方法で発信していくおつもりなのか、教えていただきたいと思います。

○答弁（文化芸術課長） コンサートの模様は、テレビやインターネットを通じて国内外に発信することとしております。具体的には、オープニングコンサートやクラシックの夕べの第1部・第2部に関しましては、ユーストリームで配信することとしております。メモリアルリーディングコンサートにつきましては、NHKワールドテレビやBSプレミアムといった国際放送で国外にも発信していくこととしております。エターナルピースコンサートにつきましては、MTVで国内外に発信することとしております。

○要望・質疑（三好委員） よくわからないものもいろいろあったのですが、しっかりといろいろ発信していただきたいと思います。

とにかく、たくさんの方に来ていただいて、平和のメッセージを発信して、それを多くの国外の方々にも届けていくということで、我が県の国際平和の拠点性を高める次のステップにつなげていくということが重要だと思いますので、一過性ということではなくて、継続性ということも認識していただき、意識していただきながら今回のプロジェクトを進めていただきたいと思いますし、また終わってからもきちんと総括していただきますよう要望を申し上げます。

次に、在宅高齢者等支援情報システム研究開発等補助事業についてお伺いしたいと思います。

この文章を読ませていただきまして、率直に、先ほども話がありましたとおり、斬新でいいなと思ったのですが、一方で定着するのに大分難しいだろうというのも率直に思いました。研究開発段階ですので、まだ決まっていないことも多いと思いますけれども、現時点の見込み等を教えていただきたいと思いますし、今年度研究開発を行って、来年度以降に本格的にシステムを展開する予定ということでもありますけれども、本格展開後にはどれぐらいの利用者を見込まれているのか、まず教えていただきたいと思います。

○答弁（高齢者支援課長） 本格展開後でございますが、県内の高齢者は、総数でいきますと大体 70 万人弱、68 万人程度おります。2人世帯、1人世帯等いろいろございますが、現在の環境のほうを調べてみますと、地デジ対応型の受信機の普及率は大体 9 割 5 分ぐらいあるのではないかと。また、民間の調査会社の結果等も見ますと、データ放送というものを知っているかどうか、全国的には 60%ほどの認知率があるのではないかとということで、目安として機械的に言えば、先ほどの 70 万人弱と 60%を掛け合わせれば 40 万人弱の人はデータ放送というものを御存じなのではないかといった見方もできるわけでございまして、一民間放送事業者と連携いたしますので、明確にこの段階で何万人というところはなかなか難しいところがありますけれども、今後、独居世帯等がふえてまいります。遠隔に住む家族の皆様の見守りのニーズ等々は確実にあると見込んでおりますし、また、費用負担の問題でありますとか、今年度、補助事業などもあわせて考えていくことで、高齢者が扱いやすい、経済的にも機能的にも使いやすいものにしていく中で、できるだけ多くの方に使っていただけるようにしていきたいと考えております。

○意見・質疑（三好委員） できるだけ多くの方にとということでありますけれども、大きなお金を出すわけでありますので、単なるアリバイづくりというようなことにならないように、しっかりその辺の数字も持っていて、考えていっていただけたらと思います。

説明を聞きますと、県等と連携して健康・医療情報及び危機管理情報を提供するということでもありますけれども、高齢者にとっては市町の情報のほうが身近で役立つという場合も多いのではないかとと思うわけですが、市町の情報は提供していくのか、市町との連携についてはどういうふうにと県としてそこに織り込んでいくのか、そのところをお聞

かせいいただきたいと思います。

○答弁（高齢者支援課長） 地域の状況を高齢者にいかに届けていくかというのは重要な点だと思います。情報提供という中で、県と市町それぞれ特性がある中で、例えば市町にありますとフェース・ツー・フェースでしっかり情報を届けるといったところは県よりは強いものもあります。県といたしましては最新の情報をしっかり提供できるとか、専門的な情報を提供できるとか、さまざまな特性がありますので、効果的に、いろいろな情報をどこから提供するかというところをしっかりと考えながらやっていきたいと思います。

容量の限界もございますので、県の持っている医療情報でありますとか、健康づくり応援店といった今想定しているものを資料に書かせていただいておりますけれども、そういったものをどれだけの分量で流せるかといった子細の詰めをしっかりとしていきながら、市町の情報がそこにどれだけ乗せられるかということも、しっかりと市町と意見交換しながら進めてまいりたいと思っております。

○要望・質疑（三好委員） 内容の濃いものにしていただきたいと思います。何か流れているというだけだったら、またさらっと終わってしまいますので、そのようなことをしっかりと指導していただきたいと思います。

そういった中で、見守り支援ということで、データ放送にアクセスしたことを遠隔地の家族等にメールで知らせるシステムも開発するということになっておりますけれども、先ほど話がありましたが、そもそもデータ放送にアクセスするということがどれほど頻度が高いのかというのは、私自身、ちょっと実感できないのですけれども、元気でもデータ放送にアクセスしないということもあるわけでありまして、その辺は何か仕掛けもしていく必要があるだろうと思います。現状では難しいかもしれませんが、何か思いがあれば教えていただきたいのと、また、本当に高齢者に異変があった場合の対応としては、当然、遠隔地にいる家族に教えるということは大切なのですが、それをしっかりと生かしていくためには地元の市町や住民等の協力がやはり必要であって、そこまでやっていくことが必要だろうと思います。今の段階では難しいかもしれませんが、思いがあれば教えていただきたいと思います。

○答弁（高齢者支援課長） 御指摘のとおり、まず、データ放送にアクセスしていただくというところが出発点になってまいります。今回、民間放送事業者と連携して、県からは助成という形でやらせていただくことにいたしました。その民間放送事業者の特性と申しますか、広報も効果的にしっかりとやっていただきながら、このシステムのコンテンツとしてのアイデア、工夫というものもしっかりやっていただけるような事業者であると思いをまして、選定したところでございます。

今のところのアイデアとしましては、先ほどのイメージのところにもありますけれども、

例えば1回押ししていただいたら健康スタンプということで、それを継続的にやって、一定程度そのスタンプの数がたまったら何か景品をとか、そういったアイデアを出していただいているところでございます。

もう1点の見守り機能、実際に異変があった場合でございますが、おっしゃるとおり、遠方の家族が把握した後が問題でございます。

まず2点ありまして、今提案をいただいている事業の中では、遠方の家族だけではなくて、複数の方を、例えば、同意等が必要にはなるとは思いますけれども、御近所の方であるとか民生委員の方であるとか、そういった方をその見守りの把握の対象にすることもできないかというふうに提案をいただいております。また、例えば遠方の家族がその地域のどなたかに相談する、それは行政でありますとか地域の方とかいろいろあると思いますけれども、そういった方にしっかり相談していただいて、その後、地域でどういう対応をするかというような体制を、この事業とはまた別に構築していく必要があると思っております。地域包括ケアシステムの構築、また、地域支え合い体制の構築、さまざまな形で県として市町の取り組みを後押ししているところでございますので、そういった事業にそういう効果が出るように、しっかりやってまいりたいと思っております。

○質疑（三好委員） 今の段階で大分詳しいお話もいただきましたので、大変安心いたしました。しっかりと思いを織り込んでいただきたいと思っておりますが、最後に、システムを開発して本格的に展開した場合でも、先ほども話がありましたが、ある程度経費も必要だろうと思っておりますけれども、その辺はどうなっていくのか、わかる範囲で教えていただけたらと思っております。

○答弁（高齢者支援課長） この事業は、今年度は県の補助でございますけれども、来年度以降は、基本的には民間事業者が主体となってやっていただくというふうに現時点では考えております。

先ほど、今年度の下半期で一定程度のモニターを確保した上で、成果や課題を洗い出して検証をしっかりしていくという説明もいたしました。そういった中でどれくらいの費用がかかるのか、また、その負担をどういった形でしていくのかといった議論もあわせてしていきたいと思っております。

○要望（三好委員） デジタル放送の機能を使うということで、有効な方法だと思いますけれども、本当に役立つ情報をタイムリーに提供したり安否確認がきちんと機能することが重要でありますので、先ほどお話しいただきましたとおり、モニターやその家族は当然でありますけれども、市町や保健医療、福祉、介護の関係者などからも幅広く意見を聞いていただきまして、多くの高齢者が利用する有意義なシステムをつくっていただきますよう要望いたしまして、質問を終わります。